

第21回仙台医療センター・がん市民医学講座

2025年9月20日(土)に仙台医療センター 3階の大講堂で約2時間開催されました。今年の講演は以下の4つで院外・院内併せて約40名程度の聴講者でした。

1. 血液がんにおける遺伝子検査の意義 血液内科医長 和泉 透
2. 切らずに治す肝細胞がん治療 消化器内科医長 田邊鴨一
3. 「肉腫(サルコーマ)とは何か?」～まれで多彩な病気が私たちに問いかけるもの～ 腫瘍内科医師 山田英晴
4. お知らせしたいリンパ浮腫ケアのコツ がん看護専門看護師 細矢美紀



簡単に講演内容について触れますと、

1. 血液がんの遺伝子パネル検査は2025年3月から保険適応となったもので、今回は当院で患者数の多い血液がんについて先陣を切った講演でした。固形がんでは2019年6月に保険適応となりましたが、標準治療の終了した患者さん、および、標準治療のない稀ながんの患者さんに対して特異的な遺伝子異常が見つかり、なんらかの治療(治験、推奨治療)が示されるのは10%以下に留まっています。2025年に受検者が10万人を超えたことが話題となりました。一方、血液がんについては国立がん研究センターと大塚製薬が共同で開発した国産の造血管腫瘍遺伝子パネル検査「ヘムサイト®」と呼ばれる検査で検査料は固形がんと同じ56万円のうちの自己負担分となります。検査のタイミングは血液がんの種類により異なっており基本的には主治医が決定することになっています。(参考: <https://hemesight.jp>) 目的は診断・治療・予後予測に利用されるということでした。

2. 肝細胞がんの内科的治療については肝細胞がん発生の分類から診断・治療まで判りやすい講演内容でした。多くの肝細胞がんは肝硬変症による肝予備力の低下や同時性の多発がんなどにより外科手術の適応は限定されます。また再発を繰り返すために治療を許容できる患者さんの多くが最も長い期間、焼灼術や化学塞栓術を行うこととなります。最近では転移を伴う再発がんに対しても多くの薬物療法が使えるようになってきているということでした。

3. 肉腫(サルコーマ)についての講演は当院では初めて取り上げました。サルコーマ自体が希少がんではありますが、体のどこにも発生しうるがんであり年間に数名の患者さんが当院でも治療を受けています。肉腫が広義のがんの中でどのような位置づけで分類されているのか、また、その希少な難治がんと闘っていくにはどのような患者さん・医療者の考え方が重要なのかについて踏み込んだ、他のがん腫でも思考回路の応用の可能な内容でした。

4. リンパ浮腫のケアについては、以前にオンライン「がん患者サロン」で取り上げましたが、当院のYouTubeチャンネルで公開して再生回数の多い動画です。今回はがん看護専門看護師で医療リンパドレナージセラピストの資格を持つ細矢師長さんが念入りに準備された講演でした。病悩患者さんは非常に多いですが病院ではなかなか個々の患者さんにケアの行き渡らない領域でありYouTube動画で公開して多くの方に参考になると考えます。

以上の動画は当院のYouTube公式チャンネルでいつでも閲覧可能ですので是非ともご覧ください。来年度のがん市民医学講座では難治の1つである膵臓がんの診断・治療・と肺がんの内科的治療についての講演を考えています。(文責 がん診療連携室 鈴木貴夫)

仙台医療センター【公式】チャンネル



仙台医療センター基本理念

最善の医療を尽くして社会に貢献します。
患者さんにやさしく働きがいのある病院を目指します。

〔基本方針〕

- ① 医療の質の継続的改善
 1. 地域との医療連携と情報共有
 2. 社会のニーズに対応した病院経営
 3. 質の高い医療従事者の育成
 4. 職員の働く環境の改善
- ② 臨床研究の活性化

目次

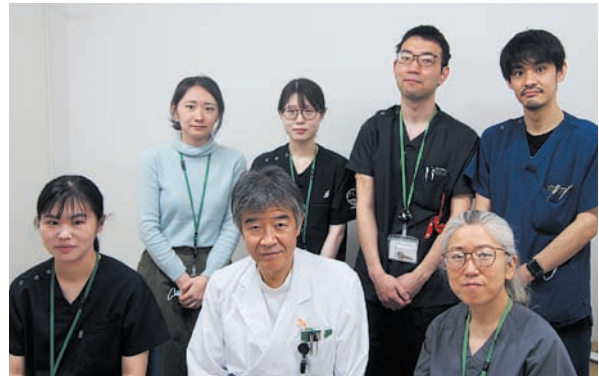
- ※第21回仙台医療センター・がん市民医学 … 1
講座
- ※各科紹介 血液内科 …………… 2
- ※新任部長・医長紹介 …………… 3
- ※仙台市医師会宮城野ブロック・仙台市薬剤師会宮城野
ブロック・仙台医療センター共催研修会 …………… 4
- ※新登録医紹介 …………… 4
- ※編集後記 …………… 4



各科紹介

血液内科

血液内科医長 和泉 透



当院血液内科では白血病・悪性リンパ腫等の血液がん治療を中心に、重症再生不良性貧血等の非悪性重症血液疾患および血友病等の血液凝固系疾患など血液疾患全般にわたり診療を行っています。月曜から金曜まで新患外来を開き、先生方からのご紹介に対応しておりますが、おかげ様で紹介患者数は年々増加しているようです。また、医学領域への貢献として臨床研究・治験にも積極的に参加しております。前回、本項の原稿を書いたのは5年前ですが、その間に血液内科の診療上いろいろな動きがありました。

■白血病

急性白血病では赤血球・白血球・血小板すべての減少による貧血、感染、出血症状がみられ、まだまだ管理が大変な疾患です。当院ではクリーンルームを活用し、化学療法や造血幹細胞移植にける高度の骨髄抑制を認める患者さんにも十分な対応が可能となっています。診断には血液・骨髄検査に加え、染色体・遺伝子解析が不可欠です。最近、血液がんに対する遺伝子パネル検査が保険適応となり、個々の患者さんについてより正確な予後予測、治療法選択ができる事が期待されています。パネル検査については当院でも次年度より実施できるよう、準備を行っております。近年BCL-2阻害薬の併用により従来困難であった高齢者の急性骨髄性白血病の寛解導入が可能となり、治療の選択肢が多くなってきています。

■悪性リンパ腫

悪性リンパ腫の領域では新規分子標的薬の導入がすすみ、治療の選択肢が増えてきています。ホジキンリンパ腫ではABVD療法が標準治療でしたが、CD30を標的とした抗体薬物複合体の併用が初発例にも導入されています。非ホジキンリンパ腫の中で最も頻度の高いびまん性大細胞型B細胞リンパ腫（DLBCL）ではR-CHOP療法が標準治療の一つですが、さらに新しい抗体薬物複合体が使用可能となり、さらなる予後改善が期待されています。再発・難治例にはCAR-T療法（CD19を標的とした遺伝子改変T細胞療法）が使用可能となり、従来の化学療法では得られなかった長期生存例も報告されています。当院でも近日中に実施可能になる見通しとなっています。また二重特異性抗体も再発難治例に適応を取得し、当院でも多くの難治例に効果を認めています。

■多発性骨髄腫

多発性骨髄腫は新規薬剤（免疫調節薬、プロテアソーム阻害薬）の登場により、かつて治療困難だった疾

患の生存期間が大幅に延びました。さらに抗CD38抗体などが導入され、新規薬剤を用いた治療の効果が確認されてからはこれらの薬剤を用いた治療が標準的になっています。若年者では自家末梢血幹細胞移植の実施が標準治療であり、現在も近隣の医療機関より多くの症例を引き受けております。最近ではBCMAを標的とした二重特異性抗体を投与する症例も増加し、難治例の患者さんの治療選択肢となっています。

■血液凝固系疾患への対応

従前より当院では多くの血液凝固系疾患に対応しており、この分野でも近隣医療圏の中核的な存在となっています。特に当院は日本血栓止血学会より血友病診療連携ブロック拠点病院の指定を受け（東北ブロックでは当院と宮城県立こども病院のみ）、多くの血友病の患者さんに対応しています。血友病をはじめ、この領域でも多くの新規薬剤が導入され、当院ではヘモスターシス外来を中心に患者さん本位の最善の治療を行うことを心がけています。

■感染対策

血液がん患者は感染症の発症リスクが高く、当科では現在もCOVID-19やインフルエンザなどの流行に配慮して診療を行っています。特に抗CD20抗体使用例やベンダムスチン投与例ではウイルス排出が長期化する報告もあり、今後も感染対策を踏まえた治療設計が求められます。

■先生方へ

血液がんは分子標的薬や免疫療法の進歩により、一部の症例では長期生存が可能となりました。しかし治療継続を必要とする症例も多く、あたかも慢性疾患のような経過をとる患者さんが多くなりました。しかし、高齢化の進展や感染症リスク、新規薬剤導入による医療費の負担増など新たな課題もあります。地域の先生方との連携により、発見・紹介・治療・フォローアップの流れを円滑にし、より多くの患者さんに最適な医療を届けていきたいと考えています。また逆紹介により、先生方にご高診を再度お願いする症例も増加するのではないかと思います。当院は、これまで培ってきた多くの患者さんの診療経験を活かし、地域の先生方との協力のもと、次世代血液がん医療の拠点としての役割を果たしながら、患者さんにより多くの治療選択肢を提供できるよう、引き続き体制整備を進めてまいります。今後とも先生方のご支援、ご協力をお願いする次第です。



新任部長紹介



副院長・地域医療連携部長

にいくら
新倉 ひとし
仁

本年10月より、地域医療連携部長を拝命いたしました新倉仁と申します。

副院長、産婦人科部長と併任となります。

地域の先生方にはこれまで、産婦人科の急性の炎症性疾患や骨盤臓器脱、さらには子宮、卵巣の良性および悪性腫瘍のご紹介を頂き、大変感謝しております。今後は仙台医療センターの全科を統括して、良好な地域の医療連携に努めてまい

たいと考えております。

仙台医療センターへの紹介患者さんの受け入れや対応についての問題点など、度々ご指摘頂いたことは承知しております。今後も継続的に、さらなる改善に努めてまいりますのでよろしくお願いいたします。また、これまで通り地域の先生方に興味を持っていただけるような研修会も継続してまいります。夕涼の会をはじめとした講演会、研修会を通して連携を深めたいと考えております。

当院でなくては対応できない症例についてのご紹介はもとより、日常的な疾患につきましてもお気軽にご紹介いただけるような病院を目指したいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。



総合外科部長

とりやべ そうはち
鳥谷 荘八

●医学部卒業年…1995年
(平成7年)

●出身地…青森県弘前市

●出身大学…秋田大学

●専門領域…手外科・マイクロサージャリー、
耳介先天異常、漢方治療

●抱負

平鹿総合病院で初期研修3年、東北大学形成外科入局、その後旧国立仙台病院を含め関連病院を研修、東北大学病院助教を経て2010年に当院形成外科医長として勤務してまいりました。従来からの急患をお断りしない診療体制はますます強化され、県内外からの上肢外傷（切断指や開放骨折など）を広く受け入れております。また先天異常は日本各地より受診依頼が来るようになりました。2025年より部長職を拝命致しましたが、ますます地域医療に力を注いで参ります。今後ともよろしくお願い申し上げます。



循環器内科部長

おのうえ のりこ
尾上 紀子

●医学部卒業年…1996年
(平成8年)

●出身地…栃木県下野市(旧石橋町)

●出身大学…東北大学

●専門領域…循環器内科全般、心血管インターベンション

●抱負

大崎市民病院(旧古川市立病院)で初期研修後、東北大学循環器内科へ入局し、大学院では動脈硬化の研究に携わりました。2004年(平成16年)から当院循環器内科に勤務しており、2025年10月に循環器内科部長を拝命いたしました。心不全や虚血性心疾患、不整脈など幅広い循環器疾患に対し、迅速かつ専門的な対応を心掛けております。地域の先生方との連携をより一層深め、質の高い医療提供に努めてまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。

新任医長紹介



脳神経外科医長

うちだ ひろき
内田 浩喜

●医学部卒業年…2009年

●出身地…埼玉県川越市

●出身大学…東北大学

●専門領域…脳血管障害
良性腫瘍

●抱負

2025年4月に着任し、10月より医長を拝命しました。引き続き、外科治療を中心に診療を行って参ります。低侵襲手術やカテーテル治療などが進歩する現代で、外科治療に求められる責務は安全性と確実性であると感じています。仙台医療センターでは、大学病院とも連携しながらすべての脳神経外科領域の診療しておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



整形外科医長

やべ ゆたか
矢部 裕

●医学部卒業年…2002年
(平成14年)

●出身地…宮城県仙台市

●出身大学…北海道大学

●専門領域…脊椎外科

●抱負

これまで福島労災病院、岩手県立中央病院、竹田総合病院、JCHO仙台病院、東北大学、仙台西多賀病院で特に脊椎疾患の診療と研究に従事し、本年10月に当院整形外科へ赴任いたしました。総合病院としての役割を担い、健康寿命の延伸を目標とし運動器の診療に取り組んで参ります。そのためにも地域の先生方との連携は何より重要であり、円滑な相互の紹介をいただける環境を築いていければ幸いです。何卒よろしくお願いいたします。



令和7年度 仙台市医師会宮城野ブロック・仙台市薬剤師会宮城野ブロック・ 仙台医療センター共催研修会

宮城野ブロックの先生方に好評を得ている本研修会の今年度1回目が2025年9月12日金曜日午後7時半からTKPガーデンシティPREMIUM仙台西口を会場に開催されました。

1題目は「診断に悩んだ症例」という漠然としたタイトル…脳神経内科の渡辺源也先生が演者として症例を提示しました。スライドをめくりながら検査データや画像データなどを小出しにして、参加した研修医に質問を投げかけつつ診断にたどり着くというクイズ形式が好評を得ました。ファシリテーターとしての篠崎副院長の合いの手も効果的でした。

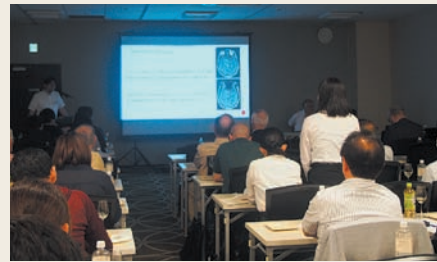
次の演題は「『元気がない/歩行障害/呂律が廻らない』を訴える一例」のタイトルで、篠崎副院長が循環器内科医の立場から発表しました。こちらも篠崎副院長が饒舌に研修医を誘導して、正解へたどり着くというパターンでした。

2題とも大変勉強になる症例発表で、参加された方々はナルホドと頷いていたようでした。

「ワインの会」として定着しつつある本会ですが、前回アンケートにおける「サンドウィッチなどもあると嬉しい」という意見を取り入れてサンドウィッチも提供したところ、大変好評を得ました。

今年度2回目の本研修会は、2026年3月の予定です。「MC篠崎」不在の本会開催になりますので、どのように盛り上げていくか、多くの課題を乗り越えていく必要があります。

副院長（前地域連携部長）島村弘宗



新登録医紹介

(令和7年10月31日現在の登録医数 1,656名)

| 氏名 | 住所 | 所属名 | 専攻 |
|-------|--------------------------------|--------------------|-------------------------|
| 宮澤 英充 | 青葉区木町通2-4-45 | 仙台星陵クリニック | 内科・放射線科 |
| 佐藤 清春 | 青葉区柏木1丁目7-28 柏木メディカルビル4F | 東北内分泌・代謝内科クリニック | 内分泌・糖尿病・循環器内科・心血管外科 |
| 藤谷 拓 | 塩竈市南錦町8-10 | 医療法人社団 藤谷内科クリニック | 内科消化器内科 |
| 菅野 庸 | 青葉区一番町3丁目8-11 アクアセカビル4階 | こころの陽だまりクリニック仙台一番町 | 診療内科・精神科・老年精神科 |
| 川村 雄剛 | 宮城野区原町2-1-59-2 | 仙台みやぎの訪問クリニック | 内科・消化器内科・小児科 |
| 牛込 亮一 | 泉区南光台7丁目5-27 | 医療法人社団豊麗会 牛込医院 | 内科 循環器科 |
| 谷田 篤史 | 青葉区国分町3丁目4-12-3F | 国分町たにた内科・循環器内科 | 内科・循環器内科 |
| 長谷川 純 | 太白区あすと長町1-3-1 SHIP仙台ビル2F | 医療法人緑生会 あすと耳鼻科 | 耳鼻咽喉科・気管食道科・アレルギー科 |
| 諸沢 薦 | 太白区向山2丁目18-10 | 仙台どうぎ・息切れ内科総合クリニック | 内科・循環器内科 |
| 関 和則 | 太白区あすと長町1-2-1 長町メディカルプラザ3F | 仙台クローパーククリニック | リハビリテーション科・神経内科・整形外科・内科 |
| 今野 豊 | 太白区鉤取1丁目6-17 | 今野医院 | 内科・消化器内科 |
| 松橋 徹郎 | 泉区上谷刈4丁目8-17 | ひだまりキッズクリニック | 小児科 |
| 佐々木慎司 | 泉区長命ヶ丘2丁目21-1 プランテ仙台ウエスト2F | 仙台長命ヶ丘クリニック | 眼科 |
| 遠野 久幸 | 泉区八乙女中央1-6-45 産電八乙女中央ビル1階 | 八乙女スキンクリニック | 皮膚科・形成外科・アレルギー科・美容皮膚科 |
| 佐藤 弘和 | 青葉区木町通2丁目4-45 | 仙台星陵クリニック | 内科・循環器内科・放射線科 |
| 飯塚 千恵 | 青葉区中山吉成1-4-5 中山吉成メディカルステーション2F | さくらキッズクリニック | 小児科・アレルギー科 |
| 片桐未希子 | 泉区泉中央3丁目29-7-3F | いずみ婦人科産科クリニック | 婦人科 |
| 原田 睦生 | 泉区上谷刈4丁目8番2号 | はらだメディカルクリニック | 循環器内科・内科 |

編集後記

今年も残りわずかとなりましたが、皆様はどのような一年をお過ごしでしたか。

わたしは健康のために通っていたジムに、今年ほとんど行けず、ついに退会をしてしまいました。習慣を身につけることや、続けることの難しさを改めて感じた一年でしたが、来年こそは体を動かさず時間を少しずつ増やして、健康的に過ごしていきたいと思っております。

今年も皆様に支えられて無事に年末を迎えることができました。心より感謝申し上げます。

来年もどうぞよろしくお願い致します。

(M・M)

仙台医療センター地域医療連携室だより 編集委員

新倉 仁 舘田 勝 犬上 直美 阿部 直美

小倉 美緒 工藤 千春 須田 剛 加藤 知己 菅野 龍二 峯田 真衣 岩渕 由香

<地域医療連携室 直通電話 022-293-1118>